

令和6年度

新宿区避難所防災訓練レポート

四谷ひろば避難所運営管理協議会（四谷地域）	1
牛込第三中学校避難所運営管理協議会（笹笹町地域）	2
牛込第二中学校避難所運営管理協議会（榎町地域）	3
余丁町小学校避難所運営管理協議会（若松町地域）	4
大久保小学校避難所運営管理協議会（大久保地域）	5
戸塚第三小学校避難所運営管理協議会（戸塚地域）	6
落合第一小学校避難所運営管理協議会（落合第一地域）	7
落合第五小学校避難所運営管理協議会（落合第二地域）	8
淀橋第四小学校避難所運営管理協議会（柏木地域）	9
西新宿小学校避難所運営管理協議会（角筈地域）	10

避難所防災訓練レポート

協議会名	四谷ひろば避難所運営管理協議会			
訓 練 日	令和 6年 11月 24日（日）		9時00分（発災）～12時00分	
運営する町会・自治会等	四谷三丁目町会、四谷四丁目町会、荒木町町会、舟町町会、愛住町町会、片町町会			
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	83人	民間事業者	人
	PTA	人	学校教職員	人
	その他	5人	区職員	10人
			合 計	98人
訓練概要	1 避難所開設キットを使った開設訓練 9時30分からの開会式後に避難所開設キットの説明を実施、その後に各部に分かれて訓練開始。 【訓練内容】 ① 本部の立ち上げ、② 施設の安全点検、③ 避難者の受付、④ 災害情報収集・伝達、⑤ 飲料水の確保、⑥ アルファ化米の炊き出し、⑦ トイレの準備、⑧ 照明の確保、⑨女性専用スペース等の設置 2 映像鑑賞（消防署）			
特色・良かった点・成果等	・避難所開設キットを使用した訓練は繰り返し行っており、参加者に開設キットの存在を知っていただくとともに、実際に使ってみることで、発災時に各自がすべきことを認識してもらうことができた。 ・訓練前の避難所運営管理協議会において、役員の中で、開設キットと本部の役割について事前に確認をしたことで、訓練当日、円滑に本部を立ち上げることができた。 ・トランシーバーで情報連携をしながら、一時集合場所から避難所まで集団避難を行う流れの確認ができた。 ・在宅避難の重要性を再認識することができた。			
課題・改善点等	・トランシーバーを使って情報連絡をする際、人によって使い方が異なるので混乱してしまった。 ・部によっては作業途中で時間が終わってしまった。 ・他の部での訓練内容を把握できなかった。			
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	・地域住民に対して、避難所に関する知識や在宅避難の重要性などを広めていく必要がある。 ・今後も、開設訓練を継続して実施していきたい。 ・トランシーバーの運用に関するルール作りをしていきたい。 ・発災時の連携のためにも、地域住民同士のつながりを広げていくことが大切となるため、より多くの地域住民が参加できるような訓練内容への見直しを図りたい。			

＜訓練の様子＞



本部の立ち上げ
避難所運営管理協議会の役員を主体として、本部の立ち上げを実施した。



施設の安全点検
被害状況の想定をもとに、各部屋が使用可能であるかということについて確認し、本部に報告を行った。



避難者の受付
受付に必要な物品等を準備した後、避難者の受付の手順を確認した。



災害情報収集・伝達
災害情報システムの使用方法について説明を受け、地域本部との情報伝達訓練を行った。



飲料水の確保
備蓄倉庫内で給水資材の場所の確認を行った。

アルファ化米の炊き出し
発電機起動とバーナー点火の操作確認をし、アルファ化米の炊き出しを行った。



トイレの準備
手順書を見ながら災害用トイレを組み立てた。（グラウンド工事中のため体育館で実施）



照明の確保
備蓄倉庫内で照明機材の場所の確認と、設置場所の検討を行った。



女性専用スペース等の設置
間仕切りとワンタッチテントの組み立てを行った。



映像鑑賞
消防署に用意いただいた映像を鑑賞した。

避難所防災訓練レポート

協議会名	牛込第三中学校避難所運営管理協議会					
訓 練 日	令和 6 年 1 1 月 1 0 日（土）		9 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分			
運営する町会・自治会等	長延団地自治会、大日本印刷通町会、市谷左内町町会、納戸町町会、加賀町親和会、二十騎町町会、南山伏町町会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	40 人	民間事業者	2 人	児童・生徒	102 人
	PTA	1 人	学校教職員	8 人	防災関係機関等	8 人
	その他	5 人	区職員	12 人	合 計	1 7 8 人
訓練概要	町会・自治会等の参加者は、それぞれの一時集合場所に集合し、避難所まで移動。9 時に体育館で開会式を行う。危機管理課による地震、水害対策についての説明。町会・自治会等の参加者と、中学 1 年生生徒・学校関係者に分かれて訓練を実施。（＊各訓練は以下の通り）その後町会・自治会等の参加者と中学 1 年生生徒・学校関係者が再び合流し、仮設トイレ（ベンチャートイレ）の組立訓練、発電機の訓練を行う。その後 1 1 時 45 分に体育館で閉会式を行い、備蓄物資を配布。 【町会・自治会等】 避難所開設キットを使用した訓練（本部の立上げ）、避難所開設キットの紹介、防災無線を用いた災害情報の収集伝達訓練、飲料水・バーナー・ベンチャートイレの準備と確認、備蓄倉庫内の物品の紹介及び説明 【中学生・学校関係者】 AED 訓練、消火訓練・仮設トイレ（イーストアイトイレ）組立訓練、通報訓練、長周期地震動の体験					
特色・良かった点・成果等	●町会と学校で班を分け、さらにその中でも班を分けることにより、多くの訓練内容を短時間で体験してもらうことができた。 ●消防、警察、学校関係者など、区の職員以外の方々にも協力していただき、多くの参加者の方々が訓練間の時間を余すことなく訓練ができた。 ●前回の訓練で体験型の訓練を行いたいという意見が出ており、それを踏まえ今回の訓練では長周期地震動の体験や、消火訓練、AED 訓練など多数の体験型の訓練を実際行ってもらうことができた。					
課題・改善点等	●町会ごとの参加人数にばらつきがみられ参加者が少ない町会もあるので、訓練案内チラシを工夫したり、チラシの周知方法を変えるなどして訓練参加者を増やすことが必要である。 ●災害情報の収集伝達をする訓練で防災無線が繋がらなかったのが改善が必要である。					
その他※今後取り組みたいこと・意見等	●災害が起きる時間は予測が難しく、夜間、年末年始など区の職員や関係者がすぐに駆け付けられない状況も考えられるので、地域の人々の協力で避難所を開設・運営できるような内容の訓練を考えていきたい。					

＜訓練の様子＞



【本部の立上げ訓練】
町会・自治会等の参加者が避難所開設キットのマニュアルに従い、本部の立上げを行った。



【開会式】
代表世話人挨拶後、筆筒町特別出張所から訓練内容説明。



【避難所開設キットの紹介】
危機管理課から避難所開設キットの紹介、避難所開設キットに関する質疑応答を行った。



【備蓄物品の紹介】
危機管理課から、備蓄倉庫内の物品の紹介及び説明。



【災害時用品の紹介】
新宿区防災用品の紹介。体育館で現物を見ていただいた。



【トイレ組立訓練】
トイレを実際に組立てた。悪天候時の組み立ては苦労しそうという意見が出ていた。



【発電機の訓練】
発電機を実際に使用して、災害時に実際、発電機を使えるように使用方法、周囲の安全確保などの説明を受けた。



【閉会式】
代表世話人、校長先生に挨拶をいただき、生徒代表者一名が訓練の感想を発表した。

避難所防災訓練レポート

協議会名	牛込第二中学校避難所運営管理協議会					
訓 練 日	令和6年10月5日（土）		8時00分 ～ 12時00分			
運営する町会・自治会等	喜久井町町会、早稲田南町町会、馬場下町会、牛込高田町町会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	47人	民間事業者	0人	児童・生徒	46人
	PTA	1人	学校教職員	7人	防災関係機関等	8人
	その他	4人	区職員	11人	合 計	124人
訓練概要	1 「避難所開設キット」を活用した避難所開設訓練(防災役員、中学生等97名参加) 8時に集合し、避難所本部（各町会長等）の指揮のもと、下記の訓練内容について役割分担した後、一体となって訓練に取り組んだ。 【訓練内容】 ①本部の設置 ②施設の安全点検 ③照明の確保 ④防寒シートセットの配布 ⑤女性相談窓口の設置 ⑥災害情報の収集・伝達 ⑦避難者の受付 ⑧飲料水の確保 ⑨アルファ化米の炊出し ⑩トイレの準備 ⑪傷病者への対応 ⑫ペット同行避難者への対応					
	2 地域防災訓練 10時に体育館にて開会式を行った後、3班に分かれて訓練を実施した。 【訓練内容】 ①AED操作訓練 ②災害用トイレ設置訓練 ③防災啓発動画視聴					
特色・良かった点・成果等	・今回は牛込第二中学1年生46名が加わり、例年より大人数で避難所開設訓練を行った。当日は悪天候だったが、全体で100人近くの方が参加した。 ・避難所開設キットを活用した避難所開設訓練では、キットを確認し、話し合いながら、作業を進めていた。アンケート回答結果では、避難所開設訓練について、「参加して良かった」、「どちらかというに参加して良かった」と回答した方が91%に達した。その他の意見についても、「いろんな人と交流ができた」「キットを見て説明を受けることで理解が深まった」等、好評な意見が多かった。 ・中学生の皆さんは地域の方々に教わりながら、積極的に活動に参加していた。アンケートでは、「知識や技術が得られた。災害時、積極的に出来る事をしていきたい」等の意見が出た。					
課題・改善点等	・各部から準備終了の連絡がなかったため、周知方法の検討が必要だった。（本部） ・情報連絡部の作業メニューである「災害情報の収集・伝達」について、システムの入力が難しかった。（情報連絡部） ・年に1回であるため、忘れてしまっていたといった意見が出た。					
その他※今後取り組みたいこと・意見等	・今回の訓練を通して、「防災についての理解が深まった。災害時に何をすればいいのか分かった。」という意見が出た。加えて、「もっと深く学びたい、実際に体験出来なかったことがあった」という意見があり、訓練の種類や内容の見直しをしていきたい。					

＜訓練の様子＞



【避難所開設訓練の役割分担】
防災役員47名が1階図書室に集合した。避難所本部(各町会長等)の指揮のもと、避難所を開設するための各作業について、役割分担と各部打合せが行われた。



【1-⑦避難者の受付】
防災役員(避難誘導部)が、1階昇降口前に避難者の受付場所を開設した。地域防災訓練の参加者の受付をした。



【1-⑨ アルファ化米の炊出し】
防災役員(物資供給部)が、校舎の連絡通路でアルファ化米の炊出しを行った。避難誘導部から報告された避難者数を元に、炊き上がったアルファ化米を小分けにし、配布する準備をした。



【1-⑨ アルファ化米の炊出し】
防災役員(物資供給部)が、校舎の連絡通路でアルファ化米の炊出しを行った。避難誘導部から報告された避難者数を元に、炊き上がったアルファ化米を小分けにし、配布する準備をした。



【1-⑩ トイレの準備】
防災役員(救護衛生部)が、体育館内に災害用トイレ(2種類)の組立を行った。(上記写真はイーストアイ)



【2 地域防災訓練開会式】
一般の参加者と牛込消防署が加わり、開会式が行われた。防災役員等からの挨拶と訓練の日程について説明があった。



【2-① AED 操作訓練】
牛込消防署・消防団の指導のもと、AEDを使用した救命手順を教わった。参加者全員で呼びかけや、AEDの使用、心臓マッサージの仕方を学んだ。



【2-②災害用トイレ設置訓練】
参加者が協力し、体育館内に災害用トイレ(2種類)の組立てを行った。(上記写真はベンチャー)



【2-③ 防災啓発動画視聴】
首都直下地震の動画を視聴した後、区職員が避難所開設に関する説明を行った。

避難所防災訓練レポート

協議会名	余丁町小学校避難所運営管理協議会			
訓 練 日	令和 6年11月17日（日）		9時 00分～ 11時 50分	
運営する町会・自治会等	若松町町会、河田町町会、余丁町町会			
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	129人	民間事業者	2人
	PTA	0人	学校教職員	2人
	その他	6人	区職員	20人
			合 計	182人
訓練概要	8時発災を想定し、8時15分に各町会に避難所が開設された旨の伝達を行い、8時45分を目途に余丁町小学校に集合。9時から開会式実施。 【訓練項目】①まちかど防災訓練車体験、②医療救護所訓練、③炊き出し訓練、④防災無線通信訓練、⑤仮設トイレ組立設置訓練、⑥受水槽での給水訓練、⑦避難所開設キットの取扱い説明、⑧災害時用電話機の取扱い説明、⑨災害時ドローンデモ			
特色・良かった点・成果等	・東京消防庁で4台しか所有していない「まちかど防災訓練車」の体験を行った。子どもから大人まで幅広い世代の方々に体験していただけた。 ・医療救護所訓練は、三角巾による応急処置訓練、BWA やトランシーバーによる情報伝達訓練といった、より実戦的な訓練を行った。 ・訓練ブースの見学については、訓練参加者を各町会ごとに分けて行っていたが、町会の数（3町会）に対して、ブースの数が7つと多かったため、ブースによって間が開いてしまうところがあった。そのため、今年度は各町会ごとに2グループに分けて行ったため、間が開くことなく、どのブースもスムーズに見学することができた。			
課題・改善点等	・女性用テントの展示があったものの、展示のみになってしまったため、来年度以降は、女性や配慮を必要とする方への対応を想定した訓練を実施する必要がある。 ・小学生の参加がほとんどなかったため、余丁町小学校や PTA と連携し、啓発等を行う必要がある。			
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	・余丁町小学校の授業の一部に避難所訓練を取り入れる ・ペット同伴の避難者への対応訓練			

≪訓練の様子≫



まちかど防災訓練①
東京消防庁で4台しか所有していない訓練車。模擬消火栓、スタンドパイプ、訓練用消火器を搭載している。



まちかど防災訓練②
子どもから大人まで幅広い世代の方々に体験していただけた。



医療救護所訓練
三角巾による応急処置訓練、BWA やトランシーバーによる情報伝達訓練といった、より実戦的な訓練を行った。



炊き出し訓練
昨年度は閉会式までに間に合うかどうかギリギリの状況だったが、今年度はスムーズに訓練を行うことができた。



防災無線通信訓練
余丁町小学校と若松町特別出張所を結んで通信訓練を実施した。



仮設トイレ組立設置訓練
昨年度はこの位置に多くの自転車が駐輪していて、訓練に支障をきたしていたため、今年度は事前にテープで規制したため、スムーズに行えた。



受水槽での給水訓練
訓練参加者が実際にバルブをひねり、給水することを確認していた。



避難所開設キット取扱い説明
危機管理課職員による説明を受けた。



災害時用電話機取扱い説明
危機管理課職員による説明を受けた。

避難所防災訓練レポート

《訓練の様子》

		
【運営管理組織立上げ訓練】 本部主導により避難所運営管理組織の参集状況を確認し、人員の割り振りを行った。また、避難所運営管理体制を確認できるよう組織図の一覧表を作成し、掲示した。	【施設の安全点検訓練】 「学校利用計画図」及び「安全点検表」を基に学校内の安全点検を行った。避難所開設にあたり、優先度が非常に高い内容と位置付け、訓練参加者（参集者）全員で実施した。	【避難所利用計画の設定】 施設の安全点検の結果を踏まえ、居住スペースとして利用できる場所を決定した。決定後、校舎利用計画図を作成し、掲示した。
		
【受付訓練】 避難者役と受付役に分かれ、健康状況チェックリストや本人への聞き取りを行い、区分分け想定の実施した。	【バーナー操作訓練】 防火部が中心となり、バーナーの使い方の説明を受け、実際に操作した。また、発電機の操作訓練についても併せて実施した。	【炊出し訓練】 物資供給部によるアルファ化米の炊出し訓練を行った。今回の訓練では約50人分を用意した。
		
【仮設トイレ設置訓練】 仮設トイレを組み立てることで、組み立て作業時間、順序などの確認をすることができた。また、D級ポンプを使用し屋上プールから水を引き、トイレ水洗用水槽に貯水する訓練を実施した。	【反省会】 各部で訓練を振り返り、訓練を通して良かった点、課題の発見、翌年度以降に取り組みを行いたい訓練内容について発表した。	【医療救護所訓練（健康部）】 模擬患者の受付から、トリアージ患者の応急処置、情報伝達、搬送調整、搬送まで一連の流れを訓練した。

協議会名	大久保小学校避難所運営管理協議会					
訓練日	令和6年12月14日(土)		13時30分～ 16時00分			
運営する町会・自治会等	いぶき町会、歌舞伎町二丁目町会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	22人	民間事業者	3人	児童・生徒	0人
	PTA	5人	学校教職員	22人	防災関係機関等	0人
	その他	1人	区職員	20人	合 計	73人
訓練概要	今年度の訓練は、全体訓練で避難所立ち上げ時における「優先順位の高い活動」に注視した活動後、各部に分かれ、「役割の確認・実践(訓練)」の構成で実施した。また、同日に医療救護所訓練を実施した(健康部)。 【タイムスケジュール】 13:30～開会式・訓練説明、全体訓練 14:20～各部訓練 15:30～訓練振り返り 【訓練内容】 全体訓練:①施設の安全点検訓練 ②受付訓練 各部訓練:①避難所利用計画の設定 ②無線通信訓練 ③受水槽給水訓練 ④バーナー操作訓練 ⑤炊出し訓練 ⑥仮設トイレ設置訓練 ⑦女性専用スペースの設置訓練 ⑧動物救護所設置訓練 ⑨医療救護所訓練(健康部)					
特色・良かった点・成果等	■代表世話人からの働きかけもあり、今年度は学校教職員が22人もの参加があった。避難所運営についての知識と、訓練に参加した経験が学校教職員に蓄積された。 ■人手が不足し訓練に支障が出る部について、即座に代表世話人からの指示があり活動部員の再配置が迅速に行われていた。実際の発災時においても計画通りにいかないことが多く出ると予測されるが、臨機応変に対応できる心構えと知識が備わっていることが確認できた。 ■全体訓練として、避難所開設の可否に大きな影響がある施設の安全点検を参集者(訓練参加者)全員で実施した。校舎内に被害想定を多数設置し、避難部屋想定となっている教室について使用の可否を判断するシミュレーション訓練を実施した。避難所立ち上げ時における初動対応について多くの委員が経験することができた。 ■各部の個別訓練では、委員が自ら資機材等の操作に取り組む姿が見られ、自分たちで避難所運営を行う自負と責任感を強く感じた。					
課題・改善点等	■訓練メニューが多かったため、避難所運営管理マニュアルや避難所開設キットを確認しながら訓練に取り組む時間が十分に確保できなかった。 ■避難所で扱う各種様式について、簡素化して分かりやすくする改善が必要であると委員からの意見があった。					
その他※今後取り組みたいこと・意見等	■地域住民参加の避難所訓練を実施してみたい。 ■割り当てられた避難部屋(教室)の使い方について考えたい。 ■部の委員が全員集まらないことが多い。集まった人同士で補完して動ける体制作りが必要と感じる。 ■民泊の宿泊客や、観光目的の来街者が避難所に来た際の対応に不安を感じる。(一度避難所に受け入れてしまったら、他所への案内ができそうにない。)					

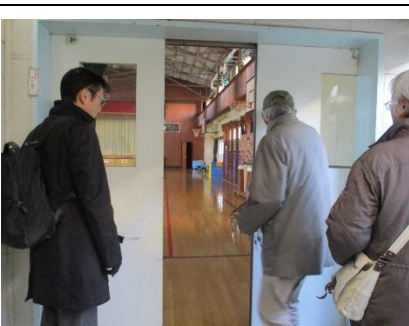
避難所防災訓練レポート

協議会名	戸塚第三小学校避難所運営管理協議会					
訓練日	令和 6年 12月 14日（土）		午前9時 ～ 11時			
運営する町会・自治会等	高田馬場三丁目宮田会、高田馬場西商店街振興組合、高田馬場三丁目戸三親和会、高田馬場三丁目光和会、高田馬場コーポラス自治会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	55人	民間事業者	0人	児童・生徒	0人
	PTA	2人	学校教職員	9人	防災関係機関等	11人
	その他	0人	区職員	8人	合 計	85人
訓練概要	○学校施設管理協力員による学校施設施設錠解除訓練を実施。 ○各班（町会ごと等）に分かれての訓練を実施。 【体験訓練項目】 ①水害に関する防災講話、②けむり体験・水消火器訓練、③起震車体験、④マンホールトイレの設置・設備訓練、⑤応急救護訓練（AED と三角巾）					
特色・良かった点・成果等	今回初めての試みとして実施した学校施設管理協力員による施設施設錠解除訓練は、実践を想定した訓練となり有意義なものだった。 訓練には、町会等一般参加に加え、学校教職員も参加して行われた。当該小学校は、水害による浸水想定区域にあり、地域住民の水害に関する防災意識が高いことから、避難訓練実施前に水害に関する防災講話を行った。 また、消防署及び警察署の協力のもと、消火器の操作訓練やけむり体験、AED・三角巾を用いた応急救護訓練といった実践的な訓練のほか、区防災センター起震車による地震の疑似体験型の内容も含め、災害時の行動や防災への関心の向上につながるような訓練を実施した。 そのほか、マンホールトイレの組み立て場所を確認し、トイレの組み立て方や、実際に使用した場合の汚物処理手順など、実践に即した説明を受けた。					
課題・改善点等	時間の関係で、マンホールトイレでの実際の設営訓練ができなかった。また、防災備蓄倉庫の見学などもなかったため、新配備した備品の確認もできなかった。次年度以降は、上記2点の課題を踏まえて、訓練の内容を検討していきたい。					
その他※今後取り組みたいこと・意見等	実地訓練を前に開催した運営管理協議会において、委員から日常生活（家）の中にあるもので応急救護ができればよいといった意見があったため、内容等について、関係機関と調整しながらどのようなことが出来るか検討したい。 また、今回初めての試みとして実施した学校施設管理協力員による施設施設錠解除訓練は実践に即した訓練となったことから、今後も継続して実施していきたい。					

＜訓練の様子＞



避難所施設施設錠解除訓練



水害に関する講話

休日等に災害が発生したことを想定し、戸塚第三小学校指導のもと、学校施設管理協力員が校門、受付会場となる会議室、避難場所となる体育館の施設解除訓練を行った。

地域特性上、水害に関する防災意識が高いことから、区危機管理課による講話を実施し、防災意識の向上を図った。



消火器による初期消火訓練



けむり体験



マンホールトイレ設置・設備訓練

消防署・消防団の指導のもと、水消火器を用いて発災時の初期消火訓練を実施した。

消防署・消防団の指導のもと、けむり体験機を用いてけむりが充満した中での移動の仕方について訓練を実施した。

区危機管理課の指導のもと、マンホールトイレの設備の使い方、トイレの設置方法などを実施した。



応急救護訓練



地震の疑似体験訓練

消防署・消防団の指導のもと、自動体外式除細動器（AED）を用いた応急救護訓練を実施した。

消防署・消防団の指導のもと、応急救護訓練として、三角巾での応急救護を実施した。



起震車（区防災センター） ↑

避難所防災訓練レポート

協議会名	落合第一小学校避難所運営管理協議会					
訓 練 日	令和6年8月25日（日）		8時30分～13時00分			
運営する町会・自治会等	中落合一丁目みどり町会、中落合二丁目町会、中落合三丁目やよい町会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	61人	民間事業者	0人	児童・生徒	4人
	PTA	6人	学校教職員	2人	防災関係機関等	21人
	その他	24人	区職員	8人	合 計	126人
訓練概要	AED 訓練、水消火器訓練、起震車体験、仮設トイレ見学、備蓄倉庫見学、ワンタッチテント操法訓練、間仕切り訓練、家具転倒防止（講話）、バーナー訓練を行った。					
特色・良かった点・成果等	令和6年度は障がい者の視点を取り入れた訓練を実施するため、協議会での協議の段階から中落合あしたホームの事業所長に参加いただいた。 訓練当日には中落合あしたホームから知的障害者の方たちに参加いただき、訓練のルートを回っていただいた。 障がい者の方たちからは「地域のイベントに参加できて楽しかった」という意見が出たが、実際に生き生きとした様子で参加していただいていたので、非常に良かったと思う。					
課題・改善点等	時間の都合上、避難所の立ち上げ訓練を行わなかったが、立ち上げ訓練の実施を強く求める声も上がったため、来年度は避難所の立ち上げ訓練を実施すべきである。 また、来年度には障がい者の方たちを福祉避難所に連れていく訓練を実施したい、という話が出ている。道中の安全性が確保できるのであれば、実施したいと考えている。					
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	上記のとおり、中落合あしたホームが事業所長を中心に、防災訓練に非常に協力的なため、知的障害者の方たちと一緒に実施できる訓練を考えて、実際に実施していきたい。					

＜訓練の様子＞



開会式
開会式の様子①



開会式
開会式の様子②



バーナー訓練
危機管理課職員がPTAの方たちにバーナーの使用方法を教えている。



受付
受付の様子 町会ごとに受付を行った。



水消火器訓練
消火薬剤に代わり水を用いた消火器訓練

避難所防災訓練レポート

協議会名	落合第五小学校避難所運営管理協議会					
訓 練 日	令和 6年 10月 20日（日）		9時00分～ 11時45分			
運営する町会・自治会等	上落合西町会、中井町会、上落合中央町会					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	77人	民間事業者	0人	児童・生徒	0人
	PTA	0人	学校教職員	2人	防災関係機関等	13人
	その他	0人	区職員	12人	合 計	104人
訓練概要	9:00～ 担当者集合 各部に分かれ機器等準備 9:30～ 受付開始 9:50～ 開会式 10:00～ 訓練開始（班別） ①消火器訓練②仮設トイレ・スタンドパイプ ③家具転倒防止啓発・プライベートテント④ろ水機・備蓄倉庫見学 ⑤携帯トイレ・受水槽 11:20～ ポンプ操法実演見学 11:45～ 閉会式					
特色・良かった点 ・成果等	・訓練当日、雨がちらついていたが、その後天気に恵まれたこともあり、消防団によるポンプ操法は圧巻のパフォーマンスであった。 ・スタンドパイプにおいては訓練参加者による実演も行った。今回の訓練において、スタンドパイプは参加者にとって一番馴染みのないものであったが、実際に参加者が消防団員とともに消火栓へ繋ぎ水を出すことで、より理解を深めることができたと思う。 ・備蓄倉庫見学の際に携帯トイレの説明・実演も行った。携帯トイレは在宅避難啓発セットとして全世帯に配布することもあり、他の訓練内容に比べ質問が多く参加者の携帯トイレに対する関心が高いように感じた。					
課題・改善点等	・参加者の多くが大人で、子どもの参加者が少なかった。幅広い年齢層による訓練を実施するためにも、子どもの参加を促す工夫が必要だと感じた。					
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	・実際に避難所を開設した際に慌てることがないように、開設にあたっての基本的な部分を押さえる訓練を今後も実施していく。 ・また、その年の参加者のニーズ（今年度では携帯トイレ）を把握し、訓練に組み込んでいく。					

≪訓練の様子≫



開会式
各班ごとに整列し、訓練内容の説明を行った。



消火器
水消火器による初期消火訓練を行った。



仮設トイレ
設置された仮設トイレの見学を行った。



スタンドパイプ
消火栓にスタンドパイプを設置し、放水訓練を行った。



プライベートテント
展示されていたテントの中へ入り、避難所生活におけるプライベートテントの確認を行った。



備蓄倉庫見学
実際に避難所の備蓄倉庫を見学し、備蓄物資の確認をした。



携帯トイレ
携帯トイレの仕様や使い方の確認を行った。



受水槽
受水槽の設置場所の確認を行った。



ポンプ操法
消防団第 10 分団による操法訓練を見学した。

避難所防災訓練レポート

協議会名	淀橋第四小学校避難所運営管理協議会					
訓 練 日	令和 6年10月26日（土）		8時00分～12時30分			
運営する町会・自治会等	柏木三和会・北新宿三丁目町会・北新宿三丁目柏親会・北新宿四丁目町会・淀橋第四小学校 PTA・日赤奉仕団柏木分団					
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	71人	民間事業者	0人	児童・生徒	0人
	PTA	1人	学校教職員	3人	防災関係機関等	15人
	その他（日赤・議員）	12人	区職員	8人	合 計	110人
訓練概要	柏木三和会、北新宿三丁目町会、北新宿三丁目柏親会、北新宿四丁目町会の4町会は、それぞれの一時集合場所に集合した後、淀橋第四小学校校庭に集合、10時から開会式。4町会を2班に分け、訓練順序に従い実施した。 【訓練項目】①参集訓練、②避難所受け入れ訓練、③AED 訓練、④応急救護訓練、⑤防災無線通信訓練、⑥仮設トイレ組立設置訓練、⑦避難所開設キットを利用した避難所開設訓練、⑧水消火器訓練、⑨間仕切り・ワンタッチテント見学、⑩家具転倒防止 DVD 視聴					
特色・良かった点・成果等	各班から、「AED 訓練、応急救護訓練、水消火器訓練は、自ら機器を操作し体験したことで、火災、人命等の緊急事態が発生した場合、速やかに対処できそうだ。」「いざというとき、慌てず冷静に対処できそうな自信を持てた。」等の感想が寄せられ好評だった。また、新宿消防署による「家具転倒防止の DVD 視聴」があったため、日頃からの備えの大切さを伝えることができ、好評であった。 来年度以降は、シミュレーション型、体験型等の訓練項目をバランス良く充実したい。					
課題・改善点等	学校のイベント、地域行事の関係で、避難所防災訓練等の実施日の調整が難航し、日程の都合により、小学校児童が参加できなかった。来年度、訓練実施の計画は、早い時期より各関係機関等と日程調整を図り、各行事及び避難所防災訓練等が支障なく円滑に実施できるよう改善を図る。					
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	災害用トイレの汚物、汚水等処理及び、日常生活用水の実地訓練ができなかったため、来年度以降、避難所運営管理協議会で提案する。					

＜訓練の様子＞

		
水消火器訓練 新宿消防署員の説明を聞きながら、訓練参加者は消火器を操作し、その使用方法を学んだ。	応急救護訓練（講話） 日赤奉仕団による応急救護の講話を聞きながら、身近なバンダナ等を利用した止血法など体験した。	災害用仮設トイレ 災害用仮設トイレの組み立てを行い、設置場所や使用方法等について学んだ。
		
AED 訓練 新宿消防団第四分団等の指導により、AED 操作訓練を実施した。	無線訓練 避難所本部から柏木地域本部との通信を想定した無線通信訓練を実施した。	ワンタッチテント 危機管理課職員の説明を聞きながら、テントの設営方法等を学んだ。
		
閉会式 訓練の総括を含め、閉会式を行った。	間仕切り 危機管理課職員の説明を聞きながら、訓練参加者が実際に間仕切りを組み立て、その組立て方法を学んだ。	

避難所防災訓練レポート

協議会名	西新宿小学校避難所運営管理協議会			
訓 練 日	令和 6年10月20日（日）		9時30分 ～ 11時00分	
運営する町会・自治会等	西新宿角三町会、西新宿四丁目町会、淀橋町会、西新宿小学校PTA、角筈地区民生児童委員会			
参加者数	町会・自治会等 一般参加者	36人	民間事業者	0人
	PTA	1人	学校教職員	1人
	その他	2人	区職員	24人
			合 計	74人
訓練概要	8時30分から今回の訓練会場であった西新宿小学校の体育館で、角筈特別出張所の職員をはじめ、危機管理課、東新宿保健センター、新宿消防団第二分団、地域活動班職員の方々と9時30分の開会式に合わせ設営準備を行った。 開会式後、町会や自治会、一般参加者の方々を中心に仮設トイレ、間仕切り・プライベートテント、受付訓練の3カ所で、各所の訓練を実施。保健センターの職員は医療救護所訓練を実施。 10時50分から最後10分程、保健センターによる医療救護体制についての説明を全体にし、閉会式となった。 【訓練項目】 ・避難所開設キットの説明 ・間仕切りの説明 ・プライベートテントの組み立て訓練 ・仮設トイレの組み立て訓練 ・災害時に避難所を立ち上げた際の受付訓練 ・医療救護体制についての説明			
特色・良かった点 ・成果等	・各自が3ヶ所を自由に回れるようにした為、各所、均等に分散され、一人ひとりへの綿密な説明をすることが出来た。よって訓練内容の理解力向上に繋がったと考えられる。 ・組み立て作業は参加者に実際に体験してもらうことで本番さながらの体験をしてもらうことが出来た。			
課題・改善点等	・プライベートテントで一部新品の物があり、使い方について一部不明な所があった為、使用前に一度出してから片付けるまでの一連の流れを把握しておく必要がある。 ・防災訓練の参加者増加に向けての取り組みが課題である。			
その他 ※今後取り組みたいこと・意見等	・避難所の受付時に行う避難所登録カードの作成を、受付カードに記入した時点で登録カードにも必要な項目だけ複写式になっていると、実際の災害時でも混雑時の受付がスムーズに行えると考える。 ・訓練終了後に参加者から、避難者の受け入れについて質問があった。「帰宅困難者を受け入れるのか」「近隣の区の住民を受け入れるのか」等。運営管理者のみならず、訓練参加者に向けて、訓練において区の避難所の仕組みを説明する必要性を感じた。			

＜訓練の様子＞



【避難所開設キット説明】
危機管理課から避難所開設キットの説明がされた。



【受付訓練】
災害時の避難所で行う受付同様に参加者に避難者受付カードを記入して頂き、その情報を避難所登録カードに転記する訓練を行った。



【仮設トイレ設営訓練】
災害時に使用する仮設トイレに関する概要等を説明の上、実際に参加者が協力して組み立てる訓練が行われた。



【間仕切り訓練】
間仕切りは設営準備時に組み立て、参加者は訓練中に危機管理課から間仕切りに関する説明を受けながら間仕切りのモデルを観察する形となった。



【プライベートテント】
現物を使いテント1つに対して参加者3～4人で協力しテントを組み立ててから片付けるまでの一連の流れを実際に体験してもらった。



【医療救護体制の説明】
東新宿保健センターより災害時における医療救護体制についての説明が全体にされた。



【医療救護所訓練】
東新宿保健センターによる医療救護所開設・運営訓練が行われた。



【閉会式】
11時10分より閉会式を行った。